

CO₂70%削減の コンクリ新製品

福岡市のヤマウ

コンクリート製品の製造販売業ヤマウ（福岡市）が、生産工程で排出する二酸化炭素（CO₂）を最大70%削減した新製品を開発した。主原料であるセメントの代わりに、製鉄所の鉄鉱石から鉄鉄を製造する際に分離派生する副産物「高炉スラグ」を活用した。サプライチェーン（供給網）全体として低炭素化に取り組み、シェア拡大も狙う。



ヤマウが開発した低炭素型コンクリートブロックが用いられた九州地方整備局の河川堤防工事＝鹿児島県鹿屋市（同社提供）

同社によると、セメントを100%使用したコンクリート（1立方メートルの場合、従来工程ではCO₂排出量が約280キロに上る。セメント会社側が担う原料の石灰石を焼成する工程で、大量のCO₂が出るといふ。

新製品のコンクリート「CNEcon（シーエヌイーコン）」はセメントの代替材として微粉末状のスラグを最大70%まで混ぜる。スラグはセメントと同様に硬化する性質があるが、生産工程に焼成はない。セメント100%の製品と比べてCO₂を約80～90%に抑えられるという。

国土交通省九州地方整備局は、昨年度実施した鹿児島県内の河川堤防工事での低炭素型コンクリートのブロックを採用し、約1500平方メートルにわたって敷設した。ヤマウによると、CO₂削減効果は約33%に上ったという。同社の寿上隆司・技術本部長は「コンクリート製品の製造においても低炭素化は社会的な責任。この技術が認知され、いろんな場所で普及すれば」と話した。

（稲葉光昭）

掲載許諾済